

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可  
平成二十一年七月一日発行(毎月一回一日発行)  
第十六卷第三号(通巻第一八三号)

鈴



ぐるっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第183号

7. 2009

身振り

品川 鈴子

片付かぬ本に囲まれ梅雨籠もり

投球の身振りを梅雨の玻璃戸へと

理事会はみな拍手にて梅雨座敷

梅雨出水天竜・安倍より暴れ富士



下ろしたてバリーの靴に名残梅雨

人待てばアイスクリーム溶けにけり

新婚の旅かと問はる夏帽子

バス座席刀自が日傘で指図する

灼ビルにクレーン背伸びバベルの塔

ふいの訃に落つる青梅おびただし



# 玉

# 鈴

# 吟

東京 北畠 明子

蝶を撮る何も考えない時間  
この土手にこんなに桜また来よう  
乗り継いで来て鎌倉の花の雨  
花の道時々出会うメダリスト  
スイートピー生けて紅茶とマドレーヌ

兵庫 木原 今女

継紙の目打続ける花は葉に  
花冷に見舞ふ媼は九十六  
自転車に足とどきかねさいたづま  
蟻見では蟻さんの歌爺婆と  
新緑に球打つ四十五位も良し

兵庫 木村 美猫

新樹光死なんぞ無き我が選択肢  
水打ちて父が家真つ赤な花ばかり  
夏瘦の犬を嘆きて父の瘦せ  
姻族の話ぎくしやく過冷房  
三味方の浅黄袴夏狂言

愛媛 久保田由布

吾があげし声に目覚めて明易し  
白服や七人の敵女にも  
蟻登る文字摺草の螺旋階  
茗荷の子食べて己の名も忘れ  
月見草真つ正面に田舎富士

兵庫 藏本博美

代官屋敷跡地に一輪紅椿  
銀鉞山洞窟抜けて山桜  
同窓会春の光に椅子光る  
デイケアー連翹の黄に見送られ  
花水木伊丹紅葉の第一号

兵庫 國永靖子

たまゆらの城は孤高に花の雲  
信玄の祭行列桜古る  
色ガラス春の彩り神将へ  
遠山の没日水田を染めしまま  
一望の浦賀水道風光る

兵庫 栗田武三

春昼の眠りむさぼる合格子  
爺婆の家にふらりと卒業子  
体のみ大人になりて卒業す  
図書券がマンガに化けて入学子  
入学といふ句読点初煙草

大阪 小阪律子

光悦垣長き寺苑の白椿  
紅枝垂行宮なりし茅葺に  
幹の洞に実生育てし紅枝垂  
御影堂の背山に馬酔木白々と  
千社札飛ばす風あり花密

東京 後藤とみ子

<sup>あにめ</sup>嫂の今年のくぎ煮やや甘め  
案内の矢印多し入学式  
留まりて色重ねゆく花筏  
里桜宅地近くに森のこり  
花辛夷夜来の風雨通りすぐ

大阪 小林 玲子

春昼の王妃のルビー魔を兆す  
マハラジャのダイヤ涼しき彩放つ  
子規庵の鴨居に擦れる春帽子  
春禽の声もたてずよ子規の庭  
春燈に明治の写真着くづれて

香川 近藤 倫子

いもうとの小さき企て桜餅  
苗木市友の消息聞きに行く  
朝寝して聞き逃したるスキャンダル  
担任に異動の報らせ卒業式  
蟻穴を出でてダンスの輪に入りぬ

兵庫 坂口 三保子

産衣干す空の向ふに初桜  
満開の桜の中を産院へ  
夕桜まだ日の残るテニスコート  
修道院門を被ひて花満開  
芽吹き初めふくらみて見ゆ甲山

兵庫 佐方 敏明

ロボットに留守をまかせて花見行  
煙草屋のあるじひねもす花見なり  
花に隔たり字余りの多佳子句碑  
白木蓮見上げ二階の眼と合ひぬ  
お百度を踏みたる帰路に初燕

東京 佐山 昭子

散ることただ一途なる桜かな  
草食系男増えたり受難節  
身の丈にそれぞれ芽吹きぬたりけり  
鋭角に変はる街並み花水木  
橋ふたつ置いて葉桜並木なり

# 薬草歳時記

(一八二)アサ(麻)

大音悦子

索道の石炭落とす麻島

山口 誓子

アサの種子は麻子仁といい、パルミチン酸、ステアリン酸、リノール酸、リノレン酸などを豊富に含み体力の消耗した老人の便秘に単品で、あるいは製剤(麻子仁丸)で服用されています。七味唐辛子などの食品にも使われています。

ところが葉にはTHC—テトラヒドロカンナビノールが含まれ、幻覚作用を表します。これが世間を騒がせている大麻(マリファナ)です。

脂溶性が高いため、吸煙では肺から、経口では腸管から吸収され、速やかに全身に分布します。血液脳関門も容易に通過して脳内に入ります。又排出されにくく一ヶ月体内に留まることもあります。

大麻はタバコより安全という言葉をよく耳にしますが、大麻の中枢作用は持続的で、精神障害を誘発するという点でタバコと大きく異なります。世界保健機関WHOによれば、大麻は脳に影響を与え、記憶力や学習能力を低下させる、空間がゆがんで見え事故の原因になる、無動機症候群とよばれ

るやる気を失う精神障害、生殖能力の障害などがおこるということですが。現在、大麻の所持及び栽培は大麻取締法により禁止されています。

毎年十月に、駅前で薬物乱用防止キャンペーンを行っていません。私達薬剤師の他に駅前交番のおまわりさんも参加して下さり、中・高校生を対象に薬物の恐さを呼びかけています。

アサはくわ科の植物で、中央アジア原産。その茎から丈夫な繊維がとれるので古代から繊維をとる植物として栽培され利用されてきました。成長が早く、大きいものは背丈が三メートルにもなりますが、種子をつけた後は枯れてしまいます。雌雄異株。大麻と間違われ易い植物として葉の形が似ている洋麻(ケナフ)があります。オクラやトロロアオイのような黄色の大きな美しい花を咲かせます。

ケナフの種子には血糖低下作用があり、茎からは炭が、花は染料にとケナフも最近注目されています。

参考文献 『原色牧野和漢薬草大図鑑』北隆館

『Pharma Tribune 2008.12』

『朝日新聞社説 2009・2・3』

『大麻・けしの見分け方 厚生労働省』

著者略歴神戸薬科大学卒

アサ(タイマ) [アサ属] (くわ科)

*Cannabis sativa* L.

(麻、大麻)



須賀悦子画

参照:

ケナフ (洋麻)

[アオイ属]

(ハイビスカス科)



さく果

雄花

ケナフの花

薬用部分：  
葉、種子

麻の葉もそよと越後のにほひかな  
 しののめや露の近江の麻畠  
 夕暮やかならず麻の一嵐  
 星赤し人無き路の麻の丈  
 麻ひたす其処より濁る沢の水  
 麻干して麓村とはよき名なり  
 麻刈りて大きな水車まはるなり  
 麻の葉のきりこみ深く涼徹す  
 明るくて向う透けたる麻畑  
 山袈のこの麻畠免許碍て

\* 藤田かもめ

(\* ぐろっけ)

各務 支考

与謝 蕪村

正岡 子規

芥川龍之介

前田 普羅

高野 素十

阿波野青畝

大野 林火

田川飛旅子

# 鈴の奏

品川鈴子選

すかんぼの酸っぱさ舌に確かむる  
大 阪 静 寿美子

畑打ちの曲背に声をかけそびれ  
紫雲英田に墓石割れて転ばされ  
寝不足の目に眩しかり花ミモザ  
私有地と木札の下がる土筆畑  
愛 媛 濱田ヒチエ

泣きやまぬ児もいて入園式終わる  
上京に筍茹も伝授する  
桐の花姉を載せゆく霊柩車  
春疾風若住職の袈裟光る  
兵 庫 林 哲夫

法要の客じつと待つ花粉症  
赤児抱き片手焼香春裕  
足弱も幼とならび灌佛会  
屋根に腰下ろし親子のしゃぼん玉  
香 川 石川 裕美

平均台ひらりと降りし春の猫  
ロツカーの荷物もともに卒業す  
中華街服を買ひ足す花の冷  
今年竹三十余節伸びそよぐ  
兵 庫 澤浦 緑

大輪の椿残して転居なる  
街猫と目の合ひ一瞬両竦み  
藪椿小花なれども目に強し  
戻り寒猫も子供も姿消し  
大 阪 古林田鶴子

居ながら辛夷の里なる仮り住ひ  
暗闇に浄土さながら白木蓮  
四月馬鹿老いの施設に笑いなく  
花まばら老木蔓に絡まれて  
兵 庫 先山 実子

花弁を啄み落す鳥の来て  
花は葉にいつしか後期高齢者  
居間うらら夫ナツメロを口ずさむ  
阿修羅像外に出て受けよ花吹雪  
兵 庫 岩木 眞澄

パンダ見ず花人となる上野かな  
両岸の桜と下る隅田川  
大き幹根に思ひはせ花見上ぐ  
回旋橋抜ける漁船や春の潮  
兵 庫 長瀬 節子



秀 鈴 記

巻頭 三句 品川 鈴子 評  
四句〜十五句 木原 今女 〃

\*選句は全て 品川鈴子

畑打ちの曲背に声をかけそびれ

静 寿美子

赤兒抱き片手焼香春袷

林 哲夫

俯いて畑を耕している傍を通るとき、ちよつと挨拶して畑仕事をねぎらいたい、だが年配なのか背も曲がり猫背ぎみ、鍬の手を休めても背骨はすつと伸びないだろう。気楽な暮らしのよそ者が、気軽に話しかけるのは憚られる。苦勞を苦勞とも言わず重ねてきた姿は、声をかけそびれるほどの尊厳。

泣きやまぬ兒もいて入園式終わる

濱田ヒチエ

幼稚園の入園式は初めて社会に接する機会で、生涯の門出の目出度い第一歩。これまでの家族だけの温室から、いきなり多くの仲間と父兄や先生とか大人にも出会う日。人見知りの兒がいて、氣後れして不安が募り、式の間をずつと泣き徹す。

実は私もその類いでした。昔の田舎には幼稚園が無くて、小学校から最たる泣き虫。

まだ歩けない兒を片手にしつかり抱いて、片一方の手で焼香をする。若い母親の抹香を抓むしなやかな手首に、喪服袷の袖口の袷ふきが際立ち、一幅の美人画を想わせる。亡き人の血筋を継ぐ瑞々しい命の裔。

平均台ひらりと降りし春の猫 石

川 裕美

猫のしなやかな身のこなしを、ひらりと降りしと表現したところは女子の体操選手が平均台を蹴つて宙返りをし見事に着地、一歩もゆらぐことなくポーズを決めた。そんな光景がダブリました。でもその後は猫のことだから素早い動きで目の前から消えたのかな。

今年竹三十余節伸びそよぐ

澤浦 緑

孟宗竹か淡竹か何れも中国原産だが日本各地で馴染の種

類。それが勢いよく伸びて枝葉を広げ折からの風に葉擦れの音が心地好い。三十余節の写生からそれらが充分伝わる。

居ながらに辛夷の里なる仮り住ひ

古林田鶴子

終の住処ではないと云う少しの不安はあるが、それをも忘れさせてくれる辛夷の花。何をしても目を上げるとそこに真白の花がある。青い空が辛夷を透して心おだやかにしてくれる。浄土のようで私も住みたい。

花は葉にいつしか後期高齢者

先山 実子

時は移ろうもの。世間で云う後期高齢者に仲間入りはしたが身体は元氣、心も充実していると、自分の齢など考えている暇もなく過ごしてこられたことでしょう。今から人生の結実期ですね。

阿修羅像外に出て受けよ花吹雪

岩木 眞澄

奈良興福寺の阿修羅像は有名であるが、戦いの神と云わ

れインド教神話、仏教神話に登場する魔神である。明るい光あふれる花吹雪の中に在せばどのように変身されるでしょう。

自転車で思わずころぶ花の下

長瀬 節子

いつも元気で買物やお使いに自転車を利用していて身体の一部のようになっていても、桜が満開であたりを見回しながら走っていると木の根にでも乗り上げたのか、気が付けば地べたから見上げていた桜は空を透かしてさぞ美しかったことでしょう。お怪我はありませんでしたか？

次々と抜かれる歩巾花ふぶき

宮村フトミ

散り始めた桜の下をゆっくり楽しみながら散歩していると足早に追い越してゆく人ばかり。抜かれる歩巾によって回りの人々の情景を浮き上がらせている。(以下略)